

「一つの中国」コンセンサスの形成と台湾： 「平和統一」に対する認識と対応

福田, 円 / FUKUDA, Madoka

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

7

(発行年 / Year)

2021-06-06

令和 3 年 6 月 6 日現在

機関番号：32675

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2020

課題番号：17KK0053

研究課題名（和文）「一つの中国」コンセンサスの形成と台湾－「平和統一」に対する認識と対応

研究課題名（英文）Taiwan and the "One China" Consensus

研究代表者

福田 円（Fukuda, Madoka）

法政大学・法学部・教授

研究者番号：10549497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,100,000円

渡航期間： 11ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国が中心となり、国際社会において「一つの中国」コンセンサスを形成した1970年代に、台湾の指導部はその過程をどのように認識し、対応していったのかを考証した。応募者はこれまで、中国の政治外交史を軸としながら、中国が「一つの中国」コンセンサスを形成しつつ、「平和統一」の提起へと転換した過程を研究してきた。本課題においては、同じ過程を中華民国・台湾の視点からさらに分析し、当時の中華民国指導部の認識や政策の一貫性と変化、台湾社会の反応などについて論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記のような研究を行ったことによって、米中台関係史のなかで「平和統一」政策が中国から提起される過程を描くことができ、「平和統一」政策がもつ今日的な問題点をより明確に理解することができた。また、現在の中国における学術環境下では、公開史料やインタビューに依拠して政治外交史を描くという方法には限界があると言わざるをえない。しかし、中国から海外に流出していた史料や台湾側の史料を精査することで、中国が諸外国や台湾との交渉のなかで、「一つの中国」に関するコンセンサスを形成し、それを背景として「平和統一」政策へと転じた経緯をより詳細に描くことができた。

研究成果の概要（英文）：This study examined how Taiwan (the ROC) recognized and responded to the process of forming the "One-China" consensus in the international community in the 1970s. I have studied the PRC's policy transition based on Chinese political and diplomatic documents. The policy transitioned from "Liberate Taiwan" into "Peaceful Unification" while receiving consensus on "One-China" from the international community including countries that have close ties with Taiwan through the 1970s. This study further analyzed this process from the perspective of Taiwan (the ROC), the perception of the ROC leadership, changes of the ROC's policy towards the PRC, and the reaction of Taiwanese society.

研究分野：東アジア国際政治史

キーワード：中台関係 一つの中国 米中国交正常化 統一戦線工作

1. 研究開始当初の背景

本課題の基課題は、「一つの中国」コンセンサスと「平和統一」の連関—中国の対台湾政策に関する実証研究（若手研究（B））であった。本研究は、中華人民共和国（以下、中国）が諸外国の関係において台湾問題をめぐる「一つの中国」コンセンサスを形成し、それに伴い対台湾政策を「武力（平和）解放」から「平和統一」へと転換させる過程を論じた。この研究では、1970年代から80年代にかけて、中国が米国を中心とする西側諸国との外交関係を回復し、国際的な地位を向上させるなかで、相手国の「一つの中国」への同意をどのように獲得したのかを考証した。そのうえで、「一つの中国」への同意を獲得したことと、台湾に対する政策が「解放」から「平和統一」へと転換したこととの因果関係について論じた。

この基課題に対応する台湾側の認識や政策の変化についても研究し、最終的には米中台関係史のアプローチで「平和統一」の時代がおとずれる背景を描くべきではないかという問題意識をもつに至ったことが、本研究開始の背景であった。このような問題意識をもつに至った理由は、1）現在の中国における学術環境下では、マルチアーカイブに依拠しつつ中国の政治外交史を描くという方法に限界があるという事情に加え、2）米中台関係史のなかで「平和統一」政策が中国から提起される過程を描く方が、「平和統一」政策がもつ今日的な問題点をより鮮明に浮き彫りにできると考えたことにある。

2. 研究の目的

本国際共同研究では、国際社会において中国が中心となって「一つの中国」コンセンサスを形成した1970年代に、台湾の中華民国政府はその過程をどのように認識し、対応していったのかを分析しようとした。本課題の基課題では、中国の政治外交史を軸としながら、中国が「一つの中国」コンセンサスを形成しつつ、「平和統一」の提起へと転換した過程を考証した。本課題においては、同じ過程を中華民国・台湾の視点からさらに分析し、当時の中華民国指導部の認識や政策の一貫性と変化、台湾社会の反応などを検討する。そして、最終的には米中台関係史のアプローチで「平和統一」の時代がおとずれる背景を描くことを目的とした。そのために、中華民国・台湾史の史料が充実しているスタンフォード大学フーバー研究所に1年間滞在し、冷戦期の中華民国・台湾史を研究する林孝庭氏と共同研究を行った。

上記と「研究開始当初の背景」に記したような問題意識のもと、本国際共同研究においては、1970年代台湾（中華民国）の対米、対中政策を中心とする政治外交上の一貫性と変化について整理し、それが1980年代の中台関係にどのような影響を与えたのかを考察することとした。1年間の国際共同研究のなかで、基課題では射程に含むことのできなかつた以下の問いに答えることを目標とした。

- 1) 蒋介石の「大陸反攻」政策は、どのように事実上の終焉を迎えたのか
- 2) 対中外交闘争における「漢賊並び立たず」の方針について、いかなる議論が行われたか
- 3) 対中国交正常化交渉をすすめる米国と、いかなる関係を維持しようとしたのか
- 4) 中国からの平和攻勢に対して、どのように対応しようとしたか

3. 研究の方法

本研究は一次史料に基づく政治外交史研究であるため、主要な研究方法は史料調査や元外交官などへのインタビューとその分析である。米国に渡航した2020年度は新型コロナウイルス流行の影響もあり、予定した公文書館すべてを訪れることはできなかつたし、インタビューもできなかつたが、受け入れ先であったスタンフォード大学図書館、およびフーバー研究所アーカイブスでの史料調査は行えた。文献資料のほか、以下のような史料を閲覧、収集した。

- ア) 蔣経国日記…台湾の元総統である蔣経国が1937年から1979年まで記していた日記で、2020年に公開された。今回は本研究の対象時期である1970年代の日記を中心に閲覧および筆写を行った。1970年代は蔣経国が行政院長を経て総統へと選出され、中華民国政府における実権を掌握する時期であり、1970年代の日記は同時期の台湾政治外交を理解する上で、今後必ず参照される史料である。
- イ) 馬樹禮文書…国民党において、東南アジア諸国や日本に対する対外政策を長らく担当してきた党官僚である。蔣経国との関係が密接であり、1972年の対日断交後に初代駐日代表を勤めたことで知られている。同文書群のなかには、駐日代表時の本人が関連した政策文書が多数含まれており、そうした文書を中心に史料の複写を行った。
- ウ) 王昇文書…蔣経国が中華民国総統となった直後に重用され、対米断交後の中国からの平和攻勢（統一戦線工作）に対抗するために設立された「劉少康弁公室」を主持した軍人である。同文書群のなかに含まれる「劉少康弁公室」関連の文書を閲覧、複写した。

- エ) 中国共産党文書…中国共産党内部文書のコレクションである。分野や時期などは多岐にわたる文書が収められているが、今回は 1970 年代の外交に関する文書と、1980 年代初頭の国安・公安関連の文書のうち、特に台湾との交流拡大に関する文書を複写した。
- オ) 中共重要歴史文獻史料匯編※…中国共産党内部文書のコレクションで、「中国研究服務中心」が編纂し、出版しているものである。今回は外交部関連の文書を中心に、複写を行った。
- カ) 唐飛文書…1990 年代末に台湾の国防部長、2000 年代のはじめに行政院長を務めた軍人が寄贈した文書群である。本研究の対象時期からは外れるが、同時期は「一つの中国」コンセンサスが米中台間で大きく揺らいだ時期であり、また現時点では多くの史料が公開されていないことを考慮して、複写を行った。
- ※はスタンフォード大学東アジア図書館所蔵、それ以外はスタンフォード大学フーバー研究所アーカイブ所蔵

また、史料調査などの結果に基づき、分析を進める際には、隣接する分野を研究する研究者との意見交換が不可欠である。これらに関しては、受け入れ先の共同研究者であった林孝庭氏と随時意見交換や情報交換を行ったほか、後述するような学会報告やワークショップを行って、他の研究者との対話を行った。

4. 研究成果

「研究の目的」のなかで立てた問いのうち、1) については、本研究開始以前に入手していた台湾の国防部情報局の文書を活用して、2019 年に開催された International Convention of Asian Scholars (ICAS) 11 において、林孝庭氏のリーダーシップの下で組織されたパネルにて報告を行った。この報告では、主に中国大陸に対する機密工作を担っていた国防部情報局が、1960 年代以降、蔣経国の主導の下で行っていた中国大陸での工作の重点が、1970 年代にはいると、破壊工作から情報収集へと、単独かつ直接的な工作から国際協力へと移行していったことを論じた。そのなかで「大陸反攻」の目標が否定されたり、取り下げられたりすることはなかったが、次第に形骸化し、実際の工作は現実的な内容へと変容していったことが分かった。

問いの 2) および 3) については、上記ア) およびイ) の史料を活用して、分析を行った。その概要は、2020 年に開催したワークショップ、「1970 年代東アジア国際秩序の変容と中台関係-『蔣経国日記』を手がかりに」にて報告を行った。本報告では、1970 年代の国際的な孤立に直面した蔣経国が①強硬な原則の提示、②具体的手段やタイミングに関する譲歩、③譲歩を正当化し、内部の正統性を担保するための国内体制強化、というステップを繰り返しながら、1979 年の米国との断交を迎えたことを指摘した。加えて、各々の政策決定において、蔣経国は台湾の孤立を深刻化させるような事態が起きることは予測しつつも、それを遅らせることを重要視していたこと、国際的な交渉で何かを勝ち取るよりも、中国共産党との内戦の論理を優先していたことなどを指摘した。

問いの 4) については、現在、史料ウ) からオ) を活用し、分析を進めている。従来の研究においては、中台双方の指導者間の公式なメッセージのやり取りが描かれることがほとんどであったが、今回収集した史料を活用することによって、中国共産党が「平和統一」のスローガンの下で展開した平和攻勢について、双方の指導者はそれぞれ国内的、国際的な影響に配慮しており、そのために様々な規制の強化、制度設計、対外宣伝の強化などを行った過程をより詳細に分析できるとの感触をもっている。さらに、史料カ) を活用して、李登輝政権末期の日米中台関係について再検討を行い、インディアナ大学 21st Century Japan Politics and Society Initiative が主催するワークショップに論文草稿を提出し、報告を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 福田円	4. 巻 195
2. 論文標題 中国とカナダの国交正常化交渉 - 西側諸国との関係改善と「一つの中国」原則の形成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Hidden War Between the ROC and the PRC: Mainland Operations of the ROC's Military Intelligence Bureau
3. 学会等名 ICAS11 (The International Convention of Asia Scholars) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田円
2. 発表標題 「一個中国」原則的国際意涵
3. 学会等名 中国文化大学社会科学院専題講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田円
2. 発表標題 圍繞「一個中国」原則的国際政治史
3. 学会等名 首都師範大学歴史学院「世界史国際論壇」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 形成「一個中国」原則的國際政治史—中美邦交正常化與中共对台政策的連接
3. 学会等名 中央研究院政治学研究所「IPSAS系列演講」(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 形成「一個中国」原則的國際政治史—中美邦交正常化與中共对台政策的連接
3. 学会等名 国立政治大学東亜研究所「東亜所專題演講」(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Origin of Japan-US-Taiwan Security Relations; Lee Teng-hui 's Legacy and Japan 's Security Policy in the Taiwan Strait
3. 学会等名 2nd Annual "Japan and the World" Academic Manuscript Workshop (招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福田 円
2. 発表標題 中国の対台湾統一戦線工作の形成と発展
3. 学会等名 ICUアジア文化研究所・JFE21世紀財団共催シンポジウム「いま問われるアジア共生の道：アジア歴史研究の視点から」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福田円
2. 発表標題 1970年代東アジア国際秩序の変容と中台関係-- 『経国日記』を手がかりに
3. 学会等名 ワークショップ「1970年代東アジア国際秩序の変容と中台関係」 / 日本台湾学会第149回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Madoka Fukuda
2. 発表標題 The Final Battle for Legitimacy; The CCP 's United Front Work and the KMT 's Overseas Operation towards Neighboring Countries in the mid 1970 's
3. 学会等名 ICAS12 (The International Convention of Asia Scholars) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 テイラー・フレイヴェル、松田 康博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 496
3. 書名 中国の領土紛争	

1. 著者名 福田圓	4. 発行年 2021年
2. 出版社 五南出版社	5. 総ページ数 484
3. 書名 中國外交與台灣-- 「一個中國」原則的起源	

〔産業財産権〕

〔その他〕

福田円研究室HP
<https://madoka-f.jimdofree.com>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	林 孝庭 (Lin Hsiao-ting)	スタンフォード大学・フーバー研究所・研究員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	スタンフォード大学			